

■修明門院(藤原重子)

しゅめいもんいん
.....1182=

後鳥羽天皇に入内し順徳天皇出産。承久の乱後、長寿保って縁者失い、孤独のうちに没した。

生。父藤原範季は文治の侍読。従二位で終るが、順徳天皇の外祖父となり左大臣従一位を贈られた。母は平教盛の娘従三位教子。重子は範季の長女である。初名は範子。当時はすめいもんいんと呼ぶ。

平氏滅亡・・・1185= 3歳：

範季の同母兄範兼の長女範子は源通親の妻となり、承明門院在子を生んで土御門天皇の外祖母、刑部卿三位と呼ばれた。次女典侍兼子は卿二位と呼ばれ両者ともに世の注目を浴びた人物である。重子を加えた3者は父方の従姉妹同士で後鳥羽天皇の後宮では互いに利害を分ち合う極めて緊密な間柄にあった。
_後鳥羽の乳母範子の縁故で後宮に入るが、後鳥羽の後宮は皇子女の誕生が続き、政界は源通親と九条兼実の対立激化に幕府の干渉も加わり複雑な状況にあった。

奥州藤原滅亡1189= 7歳：

臨濟宗始・・・1191= 9歳：

鎌倉幕府始・・・1192=10歳：

東大寺再建完1195=13歳：

建久7年政変 1196=14歳：

.....1197=15歳：

兼実の娘中宮任子に第1皇女昇子(春華門院)が生まれ、通親の娘在子に第1皇子為仁(土御門天皇)が誕生。
坊門信清(七条院殖子の弟)の娘坊門局に第2皇子長仁、
*第3皇子守成を出産、後鳥羽の譲位で土御門新帝が立つと守成は東宮となり、重子は従三位から従二位に進み、卿局兼子は典侍となり、天皇の母儀在子は従三位、准三宮宣下をうける。

源頼朝没・・・1199=17歳：

梶原景時征討1200=18歳：

.....1202=20歳：

執権政治始・・・1203=21歳：

範子は死去し、
通親は頓死したが、
卿二位兼子は健在であり、東宮母儀二位殿・3皇子生母の重みは後宮女房の中で並ぶ者はなかった。

専修念仏禁止1207=25歳：

.....1209=27歳：

*准三宮、女院に進み修明門院と号した。院号ののち、皇太弟守成は九条良経の娘立子を女御に立て、即位して順徳天皇となる。

この前後の時代が重子にとって最もよき時期で、重子の行啓は後鳥羽上皇に劣らず頻繁で、熊野・石清水・春日・賀茂・吉田・北野・祇園・稲荷等々の参詣参籠は絶えず、随時随処の御祈り、修法には僧俗の別なく派手な勸賞を行った。

北条覇権確立1213=31歳：

.....1218=36歳：

承久の乱・・・1221=39歳：

*後鳥羽上皇が北条義時追討に敗れ、出家の日、七条院に伴われ鳥羽殿に赴いて上皇と対面訣別、やがて落飾し尼となる。承久の乱で多くの近親を失い、院号・年官年爵・封戸・諸司例給一切を辞した。

_七条院と兼子から遺領を譲られたが、

北条政子没・・・1225=43歳：

道元曹洞宗始1227=45歳：

.....1228=46歳：

.....1229=47歳：

.....1230=48歳：

七条院、
兼子と相次いで死去し、
七条院周忌に坊門局腹道助法親王に七条院が譲与した御願寺の歎喜寿院で八講を修した。
これもやがて荒廃する。

御成改式目・・・1232=50歳：

金滅亡・・・1234=52歳：

仲恭(順徳の第三皇子、九条廢帝)・

.....1236=54歳：

.....1239=57歳：

.....1240=58歳：

後鳥羽兩上皇におくれ、
_「平戸記」には、修明門院に群盗が推参して略奪、女房らも皆難に遭ったとある。承久の乱後の修明門院は無一人となり身辺を守ることすら容易でなかったらしい。

北条泰時没・・・1242=60歳：

所生の3皇子順徳上皇・

.....1245=63歳：

北条時頼執権1246=64歳：

尊快法親王(実成)、

宋船制限・・・1254=72歳：

.....1255=73歳：

北条時頼出家1256=74歳：

六条宮(雅成)ら、_ほとんどの近親者に先立たれ、

_わずかに安嘉門院(後高倉院の皇女邦子内親王)の訪問をうける孤独のうちに、

北条時頼没・・・1263=81歳：

.....1264=82歳：

_没した。